

# 2006 年海外日本語教育機関調査

## 機関一覧

国際交流基金

## 機関一覧の見方

### 1. 収録機関

この機関一覧には、「2006年海外日本語教育機関調査」の分析対象となった日本語教育機関 13,639 機関の内、個別のデータを得た 12,951 機関を収録している。

### 2. 収録機関の配列

機関は、所在地により、東アジア、東南アジア、南アジア、大洋州、北米、中米、南米、西欧、東欧、中東・アフリカの10地域に分類し、それぞれの地域の中で国別に分類した。ただし、一部の国については、国の中を行政単位別（州、省、道など）に分類した。さらに、それぞれの国の中（一部の国では行政単位の中）を教育段階別に分類した。

#### (1) 国別配列

国名は、国際交流基金が使用している日本語の表記にしたがい、配列はその五十音順とした。ただし、中東・アフリカについては、中東、北アフリカ、アフリカのそれぞれの地域内での五十音順とした。

国以外の下記の地域については、呼称は通称（財団法人世界の動き社刊『世界の国一覧表 2006年版』による）を用い、< >を付して表すこととした。

- ・香港
- ・マカオ
- ・北マリアナ諸島
- ・グアム
- ・ニューカレドニア
- ・仏領ポリネシア

(2) 行政単位別配列

機関数の多い一部の国については、州、省、道などの単位に分け、日本語の通称を用いて五十音順に配列した。なお、韓国、中国の漢字で表記される道・省名は、日本語の音読みによる五十音順とした。

(3) 教育段階別配列

機関は、初等・中等教育機関、高等教育機関、学校教育以外の機関の3つに分類し、その順に配列した。

(4) 機関別配列

個々の機関については、アルファベットで表記される機関はアルファベット順に配列した。韓国、中国などの漢字で表記される機関名は、日本語の音読みによる五十音順に配列したが、そのうち、アルファベットで始まる機関については、アルファベット順の配列とした。

3. 各機関についての記載内容

(1) 掲載に用いられている見出し・小見出し、カッコ( )内の内容は以下のとおりである。

機関名	学校、研究所、団体などの名称
部門名	大学の学部・学科、大学付属の研究所・センター、団体などの講座名
住所	所在地および連絡先
tel	電話番号（国番号は各国の冒頭部分に記載）
fax	ファクス番号（国番号は各国の冒頭部分に記載）
email	電子メールアドレス
URL	ホームページ URL
教師数	全体 その機関で日本語を教えている教師数 母語 日本語を母語とする教師数

学生数 日本語を学習している学生数  
設置主体 機関の設置主体  
国、州、省、地方自治体などが設置した機関  
民間の団体や個人が設置した機関  
日本の外務省、国際交流基金などの政府関係組織が設置した機関  
の3つに分類し、 は公、 は民、 は政と略して、学生数の右横の( )内に記載

- (2) 調査票への回答が無記入の場合は、記載を省略。
- (3) 電話番号、ファクス番号、教師数、学生数の空欄は、調査票への回答が無記入であったため。
- (4) 回答の中には教師数、学生数が「0」と記入されているものがあつたが、そのまま記載した。
- (5) 各機関の下段右端に掲載順に5桁の整理番号を付している。この番号は機関名索引の番号に対応している。

#### 4 . その他

- (1) オーストラリアの TAFE は、Technical and Further Education の略。省略形が一般的に使用されるため、この一覧でも省略形を用いた。
- (2) オーストラリアなどの LOTE は、Languages other than English の略。省略形が一般的に使用されるため、この一覧でも省略形を用いた。
- (3) インドネシアの SMU は、Sekolah Menengah Umum( 普通高校 )、SMK は Sekolah Menengah Kejuruan( 職業高校 )

SMIP は Sekolah Menengah Industri Pariwisata ( 観光高校 ) の略。省略形が一般的に使用されるため、この一覧でも省略形を用いた。

- (4) 同一の機関であっても、異なる部門において日本語教育が行われていることや、学生を対象としている講座と一般市民を対象にしている講座の両方がある場合は、異なる機関として別個に掲載している。
- (5) 記載内容は 2006 年度時点のものであり、その後変更されていることもあり得る。